いけにえおんな
生贄女は孤独な
おにがみさま
鬼神様に
つがいこうび
番交尾で
堕とされる
生贄女は孤独な鬼神様に
番交尾で堕とされる

三年ほど
前から続く
日照と酷い飢饉
そして流行り病
大人たちは
言った
鬼神様が
お怒りなんだ
これ以上
人が死ねば
もうこの村は
終わりだ

最後に
供犠をしてから
もう何十年経つ？
生贄を捧げて
お怒りを
鎮めるしかない
だが
誰にする？
うちの孫は
ごめんだぞ
そんなの
どこだって
同じだ

…ああ
そうだ

ちょうどいい
八重がいるじゃないか

こんな話

このご時世
どこにだって
ありふれている

じっちゃと
ばっちゃ
泣いてたな…

貧しいのに
山の麓に
捨てられてた
私を拾った上に
今日まで育ててくれた二人が
長生き出来るのなら
それでいい

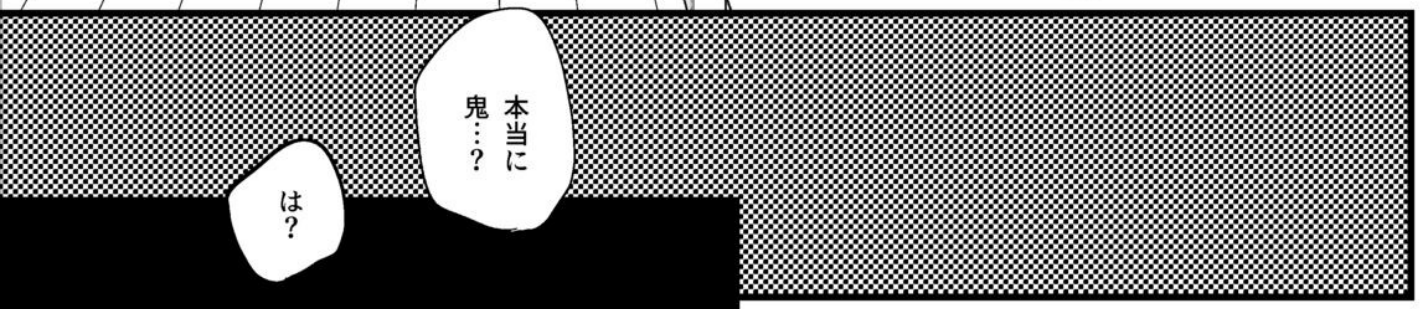
ザクッ

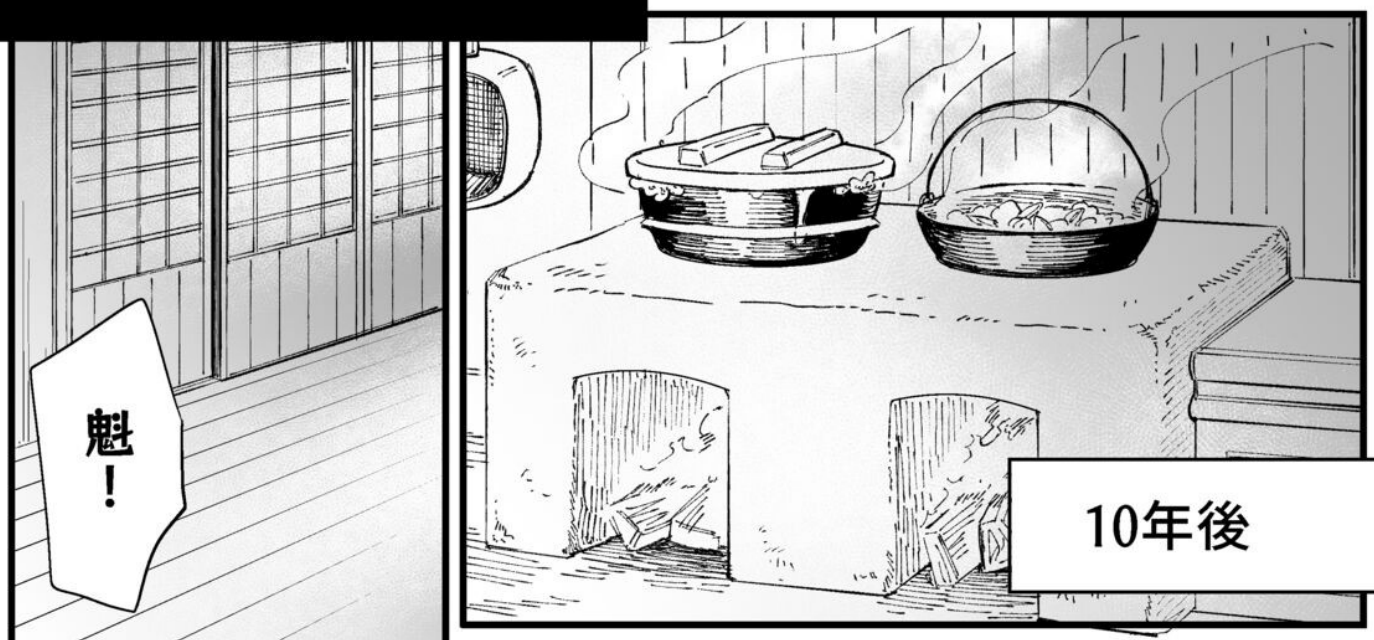
だから本当に
気にしなくて
いいのに…

鬼神がいるという
山の奥深くにある
昔の人が作った
お社と
大きなお屋敷

そこで私が
出会ったのは

誰だ？
お前
神様と見紛う程
美しい鬼だった


本当に
鬼…？
は？


魁！
10年後

もうすぐお昼だよ
起きて
う〜〜〜…
ぺしぺし
ばっ
よいしょ
うわ
今日用事あるって言ってたでしょ
ご飯出来てるから顔洗ってきて
も〜〜〜〜…
こんな寒い時に急いで起きなくたって
もっとゆっくりすればいいのにさあ…
しぁ…
はいはい
っと…
全く

すっかり八重は
大きくなったなあ

魁と
出会った
あの日
何故か運良く
気に入られた
私は……

俺と契りを結ぶなら
生かしてやってもいい

へえ

願い通り
村も助けてやる

その代わり

俺と共に暮らし
身の回りの
世話をしろ

そんなの
あの日死ぬと
思っていた
私にとっては
渡りに船で
魁は
会った時より
年寄り臭く
なったよね
とげとげしさが
無くなった
というか…
えっ
そういうの
気になる年頃
なんだから
やめて？
ていうか
八重の分は？
ご飯
魁が
食べ終わって
からでいいよ
先に
片付け
しとく
あのさ
ぐいっ
何回も
言ってるけど
そういうの無し
家族なんだから
一緒に食べよう
おに…

あれ…八重ちょっと太った？

……!?

変態おじさん

はいはい

一緒に住むようになった後

生きることに精一杯で字もまともに読めなかった私に

魁はお腹いっぱいのご飯と教養をくれた

身の回りの
世話どころか
なに一つ満足に
出来なかった
私相手に
ザシャーーンッ
ごめん
なさい…
別に
構わん
ここにはお前の
失敗を咎める
奴はいない
気に
するな
…こんなこと
言ってくれる人
村には誰も
いなかった

どうして
私みたいな人間に
ここまでって
思うからこそ
ちゃんと役に
立ちたい
掃除も終わったし
汁物でも
作って待ってよう
……
……そんなに
太ったかな…？
ムニ…
そう思って
いるのに
ただいま
おかえり！
これ
お土産

いちご飴…
あれ？
嫌だった？
昔はあんなに
うれしそう
だったのに
もう
子供じゃ
ないのに…
まあ
ありがたく
食べるけど！
おいしい!!
もごご…
ぷはっ
喜んでもらえた
みたいで
良かったよ
すぐこうやって
甘やかして
くるから
魁のお土産が
私を太らせてる
気がする…
昔から八重は
食べてる時が
一番かわいいから
ついつい
餌付けしたく
なるんだよね
……

ふーん
コラコラ
そっちは
俺の布団
ボスッ
村だと
鬼は恐ろしい
ものだって
教わったけど
むしろ
子供じゃないって
言ってたのにねえ？
父ちゃんとか
兄ちゃんがいたら
こんな感じ
なのかなって
胸が
あったかくなる

おなかいっぱい
ご飯が食べられて

あったかい
場所で寝られる
生活なんて

昔じゃ
考えられない
よなあ

ガサッ

びくっ

!?

こんにちは

なんで
ここに人が…？

もしかして
貴女は…

八重さん
ですか？

えっ…と…？

村だと絶対に
山に立ち入っちゃ
いけないって
教えられるのに

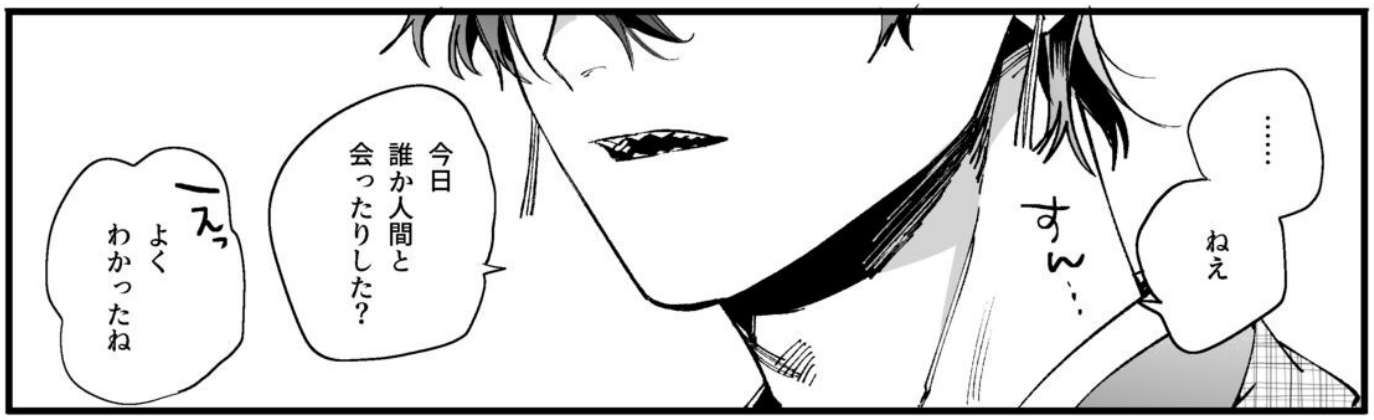
お会いしたかった！
!?…、!?

先ほどはいきなり申し訳ない
私は葛西武雄と言う者です
自分探しのために各国を漫遊しています
まぁ…いい年で恥ずかしいですが…
恥ずかしいなんてそんな…
それぞれ色々な風習や考えがあって
見て回るのはとても楽しい

今は麓の村で
お世話に
なっています
へえ…
私はこの村から
出たことすら
ないから
考えたことも
ない世界だ…
その際に
鬼と暮らして
いるという
貴女の噂を耳にして
是が非でも
お話をしたいと
思ったのです
まあ村の方々には
死ぬほど反対
されましたが…
……
しす
他に面白い国は
あったんですか？
それはもう！
例えば…

ああ、もうこんな時間だ
そろそろ下山しなければ
…貴女は鬼と共に生きることは怖くないのですか？
え…？全然！
むしろ私なんかがここまで優しくしてもらっていいのかなって
そう思ってるくらいで…
……
八重さん
いくっ

沢山の国を
巡って
来ましたが
貴女の
ような方は
初めてだ
また
お会いしたい
ちょっ…！
これは他国では
ただの挨拶ですので
では！
なんだ
この人…
そういえば
魁以外の
誰かに会ったのは
久しぶりだな…


……
ねえ
すん…
今日
誰か人間と
会ったりした？
ーんっ
よく
わかったね

他所から来た人が
迷い込んだんだって
ずっと旅を
してるらしくて
色んな国の話を
聞いたよ

へえ…
楽しかった？
こーーん
私が知らない
世界がたくさん
あるんだなって
どうか
した？

…でも人間を
あまり信じたら
駄目だよ
特に八重は
優しいから
あとちゃんと
約束は守ること

ポン
うん…
いい子
……？

じゃあ
ご飯にしよう
魁とした
約束は二つ
一つは身の回りの
世話をすること

そしてもう一つは
この山の外に
出ないこと
魁は村の皆を
良く思って
いないから
…お前に
不幸を
押し付けて

何もなかったかのように笑って過ごしている
昔から人間はなにも変わらん
村との繋がりが苦しいのなら
俺が断ち切ってやろうか？

…？
大丈夫！私が望んでここに来たから
そうか…

お前がそう言うなら今は納得しよう
だが忘れるな

八重が望むなら
いつだって
構わない
約束自体が
私の為を思っての
約束なのはわかってる
それでも魁は
私の気持ちを
尊重してくれたから
ギリッ…

思った以上に

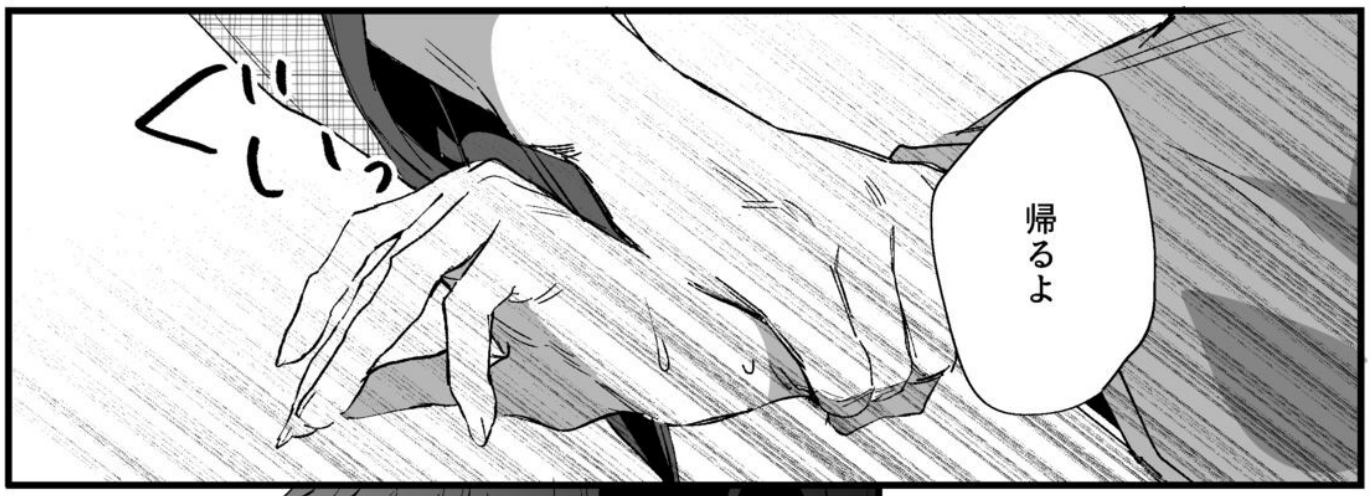
気分が悪いな…

それから
毎日あの人は
山に入ってきて
自分が見てきた
他国の話を
してくれた
流石に来すぎ
じゃない？
って魁に苦言を
呈されるくらい
まあ
確かに…
魁以外と話すのが
久しぶりだから
浮かれてたけど
嫌な思い
させたくないし
次からは
やんわり
断ろう
八重さん！
葛西さん
すみません
今日は
忙しいので…
違うんです

貴女のおじい様が
体調を崩されたそうです
えっ…
貴女の迷惑になるからと本人に口止めされたのですがいてもたってもいられず
行きましょう
でも…
ぐいっ
これが最期かもしれないんですよ
……っ
わかりました…
理由も理由だしすぐ戻れば魁も納得してくれる…
八重

どこに
行くつもり？
魁…
約束を守れない
ような悪い子に
育てたつもりは
無かったんだけど
それとも
なに？

毎日男と
逢引する
くらい
人間が
恋しくなった？
ちが…！


ぐいっ
帰るよ

ちょっと…っ
俺から
逃げ出そうと
するなんて
許すわけ
ないだろう？
ビクッ
ギロ。。
会って
いるのには
目を瞑ったが
この
雰囲気、

まるで
出会った頃みたい
じっちゃの
体調が悪い
みたいで
少しだけ
様子を見たら
帰ろうって
思ってたの
それも
聞こえていた
八重を手放した
時点でとっくに
縁は切れている
というのに
随分と
虫の良い
話だな？
……
…そうだと
しても…
私を育ててくれた恩があるから…

ぐいっ
お前…
なにを勘違い
している？
え…
あの時贄として
献上されたお前を
俺は確かに
貰い受けた
ならお前は
誰のモノだ？
言ってみろ
ギリッ
いたい…！

鬼を知って
今更
怖くなったか？
…かわいそうに
俺の言うこと
だけを聞く
いい子でいたなら
ずっと優しい
ぬるま湯に
浸かって
いられたのにな？

魁
やめて
やだ…！
あっ
はぁ
ぁあ
ぢゅっ
ぢゅっ
家に帰ってから
ずっと体を
触られて
なんで…っ
あっ
ぢゅっ…ッ
嫌なのに
ぞわぞわする…
あ
ぢゅる…
ぢゅく
ぢゅく
はぁ
はぁ
ふぁ
あっ
ぢゅっ…
ふ…
ぢゅっ
八重は俺のことを
優しい父か兄だと
思っていただろう？
やっ
くしっ

毎日八重が
無防備に
微笑みかける度
やっ…！
やだ…
はぁ
ま
俺はお前のことを
手酷く扱いたいと
思っていたのに
じゅるるるっ…
やだっ
やっ
おっ
お～～っ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
はっ
はっ
あっ
そこやだ
吸わないで、
んっ…
ぜクッ
ぜクッ
勝手に
腰が跳ねちゃう…っ
あっ
おっ
んっ…
ぬるぉ…
ぬるぉ…

あっ
なんかへん、きちゃうっ
やだ…っ
はーっ
はーっ
あッ
あッ
八重
気持ちよくて
おかしくなりそうな時は
イくと言え
んッ
いえない、
んぅッ
何故？
八重には
沢山のことを
教えてきたでしょ？
それと
何が違うの？
うう…っ
ふ、
ずるい
その優しい顔で
言われると、
あっ♡
あっ♡
んッ
はっ
はっ
い、く…
イく、
いく…っ♡
はっ
ガクガクッ

逆らえな…っ♡
あぁ…あ…
びくっ
びくっ
ビクビク
初めてなのに
潮まで吹くなんて
いい子
？
？、
はぁ、
はー
ガク
ガクガク
八重のその
怯えた顔が
かわいくて
かわいそうで
魔羅が
昂って
仕方ない
ぐり
ぐり
ぷっ

鬼の子種を八重のここ
胎に入れるとどうなると思う？
知ら…ないぃ…っ♡
んッ♥
あッ♥
あッ♥
俺の番になり八重は人じゃなくなる
はぁ…
俺が死ぬまで共にあり続ける
一生

魁…
そう言った
魁の顔は
村のみんなが
恐れていた
鬼そのもので
こんな魁
知らない
怖い

……

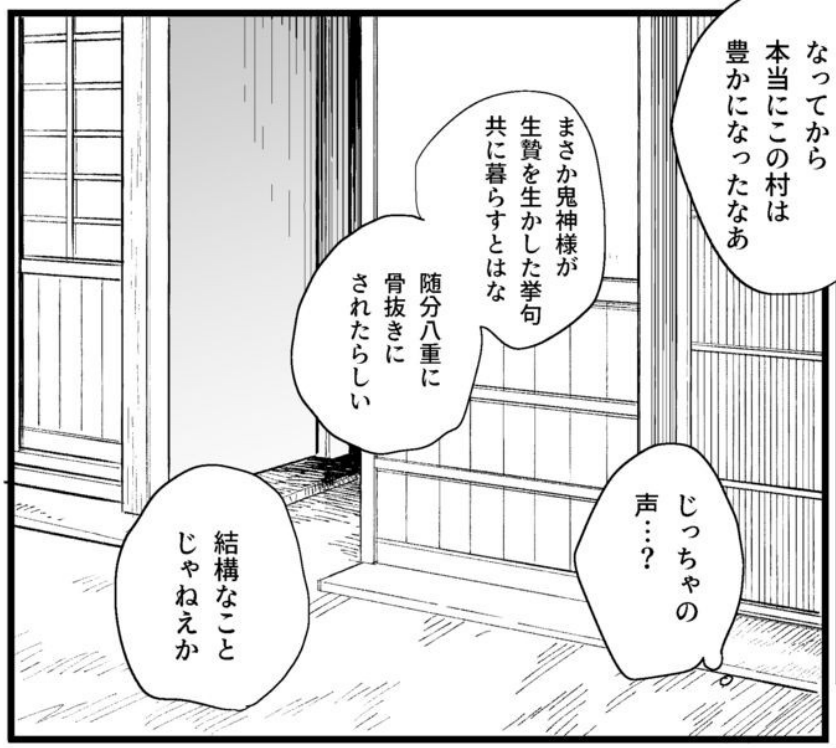
…もういい
興が
削がれた
え……
このまま
一緒にいると
俺はいつか必ず
お前を喰うだろう

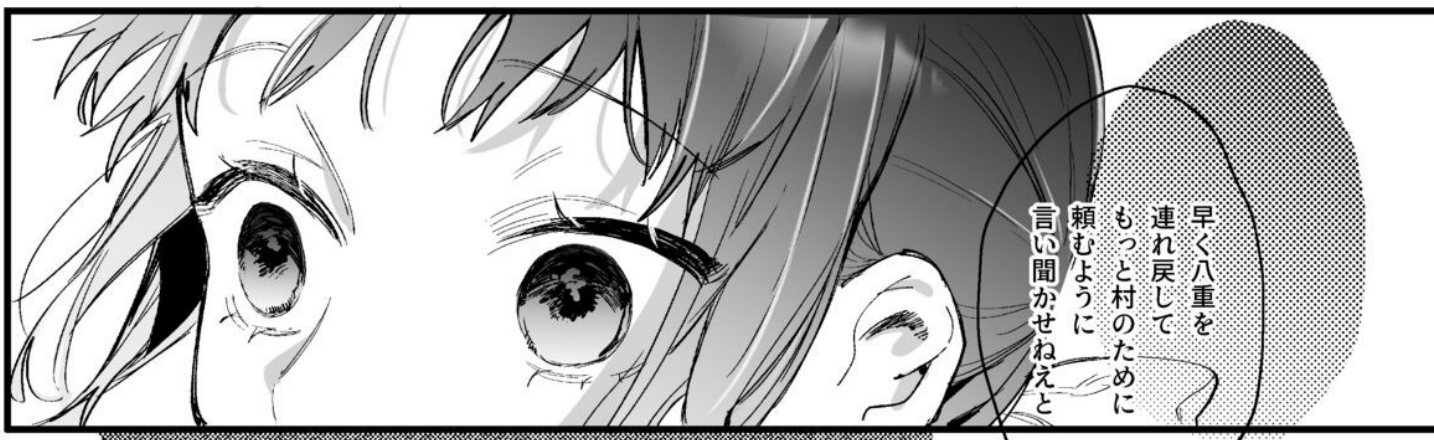
…八重の
好きに
すればいい

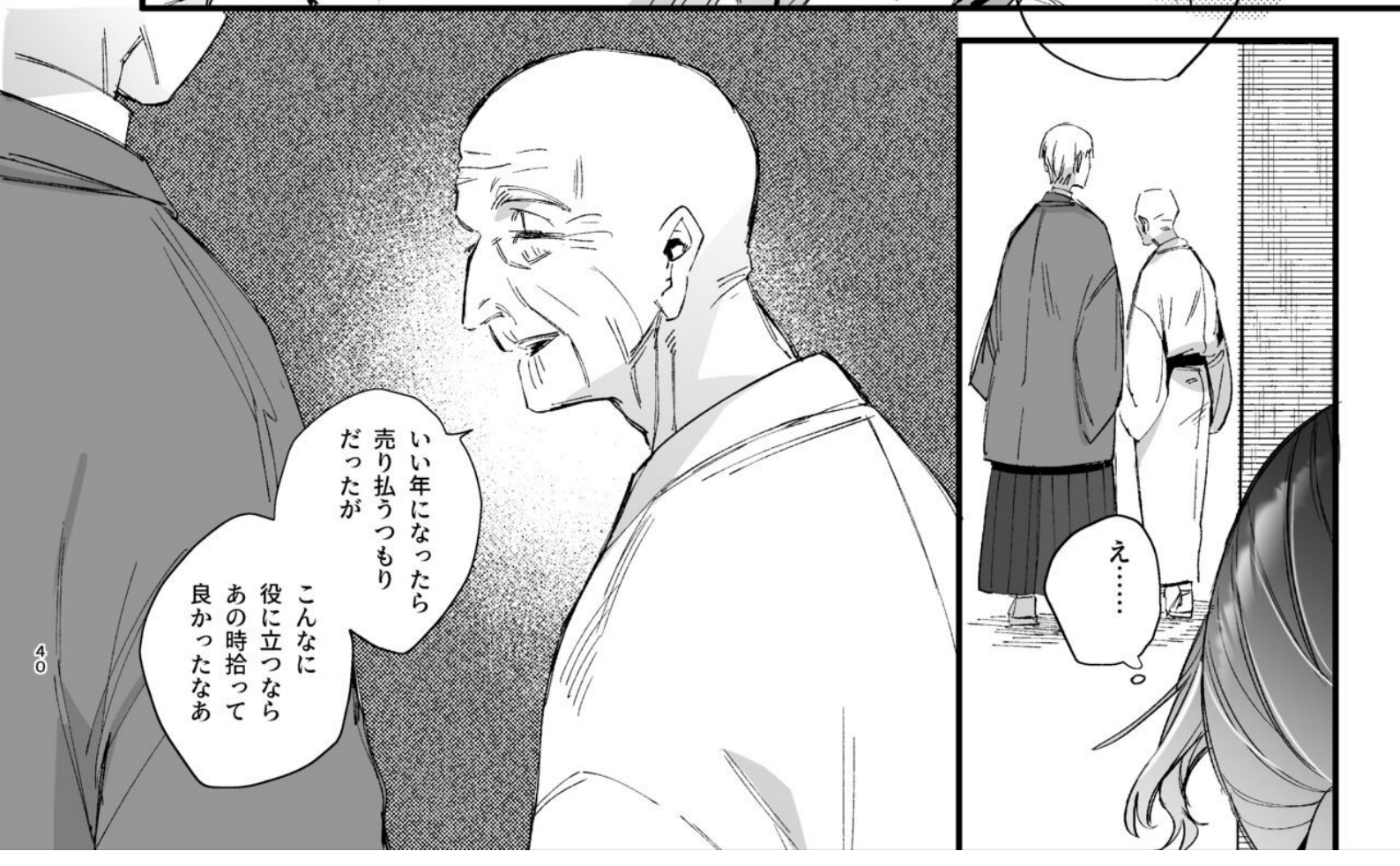
好きにって
言われても
これから
どうしたら
いいのか
わからない
魁は
出会ってから
今まで
ああいう風に
無理を強いた
ことなんて
一度も無かった
頭の中
ぐちゃぐちゃで
魁の気持ちが
知りたい…

これ以上魁を裏切るようなことしたくない
でも、
お前親はどうした？捨てられたのか？
一緒に来るか？食べるものが多いわけじゃないが
八重は本当にいい子だなあ
一緒に暮らせるだけで幸せじゃ
ぎゅ…っ
最期かもしれないんですよ
ダッ
っ…

私がいた時の
村とは
全然違う…


本当に
八重が贄に
なってから
本当にこの村は
豊かになったなあ
まさか鬼神様が
生贄を生かした挙句
共に暮らすとはな
随分八重に
骨抜きに
されたらしい
じっちゃの
声…？
結構なこと
じゃねえか


早く八重を
連れ戻して
もっと村のために
頼むように
言い聞かせねえと


え……
いい年になったら
売り払うつもり
だったが
こんなに
役に立つなら
あの時拾って
良かったなあ

かわいそうに
八重は
アンタのことが
好きだからな
アンタが病床に
臥せってる
って聞いたら
なんでも言うこと
聞いちまうと見たね
なあに
育ててやった
恩ってのが
あるだろうよ
そんなに
焦らなくても
もうすぐだ
山に入れない
俺たちの代わりに
高い金出して
余所者を
雇ったんだからな
…余所者？
……オイ
なんでお前
ここに
いんだあ？
ガッ
はっ

どうした？
……って
お前、
八重か？
う…
最初から…
仕組んでたんだ…
全部
聞かれてた
みてーだが
そうか…
なら
仕方ねえ

なあ八重
お前の口から鬼神様に
この村をもっと
豊かにするよう
口添えしてくれんか？
そうすると
ワシらは
もっともっと
幸せになれる
八重は
優しい子じゃから
わかってくれるな？

なんだ…
私馬鹿だなあ…
…でも人間をあまり信じたら駄目だよ
特に八重は優しいから
一人で山にいた時からずっと捨てられたままだったんだ…
心の底からそう思ってた
少しでも皆のためになるなら
育ててくれた二人のために
魁だけが私のことを思ってくれてたのに
私が全部駄目にした
だから
絶対に嫌だ

…アンタ
あの後鬼に
喰われたとばかり
思ってたが
そうじゃない
ところを見るに
気に入られてる
ってのは
本当らしいな
…別に自分から
言うまで
痛めつけたって
いいんだぞ？
俺はそういうの
得意だからな
好きに
すればいい
これ以上魁に
嫌な思いを
して欲しくない…
あん時も
思ったが
相変わらず
化け物に
絆されて
気持ち悪い
女だな
ぎゅっ
八重に
触るな

お
鬼神様…！
魁……？

ぱち…
ここは…
家…？
おはよう
身体痛い
ところない？

そっか…
私結局魁に
助けられて…
治して
くれたんだ…
…あの、
…初めて八重と
会ったあの日
人間に利用されて
贄にされたのに
恨みもなく
鬼に対して
恐れを抱く
わけでもない

そんな八重に
言葉では言い難い
感情が芽生えるのは
すぐだったよ
それでも
八重が家族として
俺を慕っているのは
わかっていたから
そう在ろうと
してきたけど…
やっぱり
無理だった
衝動に身を任せて
手籠めに
しようとする
ヤツなんかより
村に戻って
人として生きる方が
幾ばくか幸せかと
思おうとした
…でも
駄目だ
あんなに
酷いことをしたのに
どうしても八重を
手放したくない

ごめんなさい…！
私が馬鹿だから
魁だけが私を大事に思ってくれてたことにすら気付けなくて
魁の優しさに甘えて約束を破ったのに、
八重…

ぎゅ…っ
それでも助けに来てくれてうれしかった…
…今度は逃げないからさっきの続きをして欲しい
…え？

…そんなの、
こっちの
台詞だよ

辛いこと
全部忘れるくらい
気持ちよくなろうね
ぐっ
前も
思ったけど…
八重
胸触られるの
好き？
あ、
そんなの
わかんな…
あうっ

こうやって触ってると
だんだん乳首がかたくなるから
たくさんかわいがってあげられる

こうやって
舌で先っぽ
こねた後
咥えて
転がして
おなかがぞわぞわする…っ
今度は
こっち

そこ
やっ……！
すごいな…
どんどん
溢れてくるよ
一緒に
触るとどう？
魁の指がずぼずぼ、
ナカをかき回すたび
腰が勝手に
動いちゃう…♡
そんなに
へこへこ
しちゃうくらい
きもちいい？

かわいい…♡
ぐりっ…♡
ひッ…♡
ヤ…
ガクガクガク
くるッ♡
あ、あ、あ♡
ビクッ
ビクッ
やッ～～♡
びくっ
びくっ
びくっ
ぷしゃ～
はっ
はっ
はぁ
ちゅ
ちゅ
八重には
悪いけど
ずっと
我慢してたんだ
もうおあずけ
なんて無理
だからね

八重の
全部が欲しい
まって、
そんな
おっきいの
入らな…
はーっ
はーっ
大丈夫
八重の
大事なとこ…
おまんこは
挿れて
欲しそうに
してるし
ぬぷぷ
ぐりぐり
ぐりぐり
ぬぷぷ
ぜキッ
ぬぷぷ
ぴくっ
ぬぷぷ
ぬぷぷ

あー…
やっと
八重の中に
入れた…
ふー…
ふー…
ぶるっ…
苦しい？
そっか
くるし、
みちっ…
ぐぐっ
はっ
はっ
あッあ
なるべく
優しく
可愛がるから
はっ
はっ
ガク
ガク
ガク
んあぁ…ッ
お…
あ…あ…

ぐり
んッ
少しずつ
慣らして
行こうね
ほら
ゆーっくり
奥まで挿れるよ
ぐち
ぐり
あッ…
ずぷ
ビクッ
ビクッ
あおおおぉ〜
ぬち
ぬち
ぬっ
ぬっ
ぬっ
あ
あっ
あっ
ぞくっ
ぞくっ
ぞくっ
はっ
はっ
ユサ
ユサ
あれ？
もうきもちよく
なっちゃってるの？

ほらここも
一緒に
触ってあげる
はーっ
はーっ
そこ
やだっ
あっ♡
あっ
ならぐにぐに
こねる方が
好きかな
あは
すっごい
締め付け…♡
うあ♡
あっ…♡
あっ
ぬちっ
ぬちっ
ぬちっ
カリッ
カリッ
カリッ
カリッ
ビクッ
ガクッ
はぁっ
はっ
グリ
グリ
グリ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
あっ
あーっ
あ、あ、あ、
イッ♡♡♡
ビクーッ
ビクッ

…？
ここが八重の
いいところだよ
わかる？
突く度にナカが
痙攣してる
こんなに
ヨガっちゃって
かわいい…
ちがっ…♥
あッ♥
違わない
でしょ

さっきから
腰浮いちゃ
ってるけど？
あっ♥
あ、
んッ♥
ひッ♥
んあっ♥
おッ♥
ぱぢゅ
ぱちゅっ
ぱぢゅ、
んっ、っ♥
ふーッ♥
また
きちゃう…ッ♡
好きなだけ
イっていいよ
〜〜〜ッ♥

あ♥
あ゛♥
パンパン
あー…すごい
吸いついてくる…♡
パーン
あ゛
ひッ…♥
びくっ
おッ
おっ♥
んあ゛ッ♥
はっ
はっ
はっ
ふーっ
ふーっ
あッ♥
まだイクッ
イクッ♥
ぱちゅっ♥
イ゛ッ
ビクンッ
おっ〜〜♥
はぁ…
俺も
出そう、
ビクッ
あッ♥
ぱちゅっ
ぱちゅっ♥
あっ♥
は〜…
は〜…
は、♥
このまま
出して…っ
え…

…自分がなに言ってるかわかってる？
前に教えたよね？番になって戻れなくなるって
ぬちゅっ
ぐいっ
ぎゅーー
それでいいから…
私は
魁だけでいい、
はーー♡
はーー♡

だから私を
魁のモノに
して…

ぜっ、ぜっ、
きゅん♡
きゅん♡
ぶるっ
おぉ♡
ビュー
あ♡
あ…♡
見なよ
八重
全部
入ってる
はぁ…
ぜへッ
んあッ♡
おくッ
おくおくッ
ビュッ♡
ビュッ♡
ビュッ♡

はっ、はぁ、
あ、あ…♡
!?
やっ…！
お腹
あつい…っ
おだッ♡あッ
ガクッ
ガクッ
ああああ…ッ♡
これは
八重が
俺のものに
なった印
ぴちゃ…
ぴぢゅ♡
初めてだし
ゆっくり気持ちよく
なってもらおうと
思ってたけど
やめた
はっ、はー、はー…っ

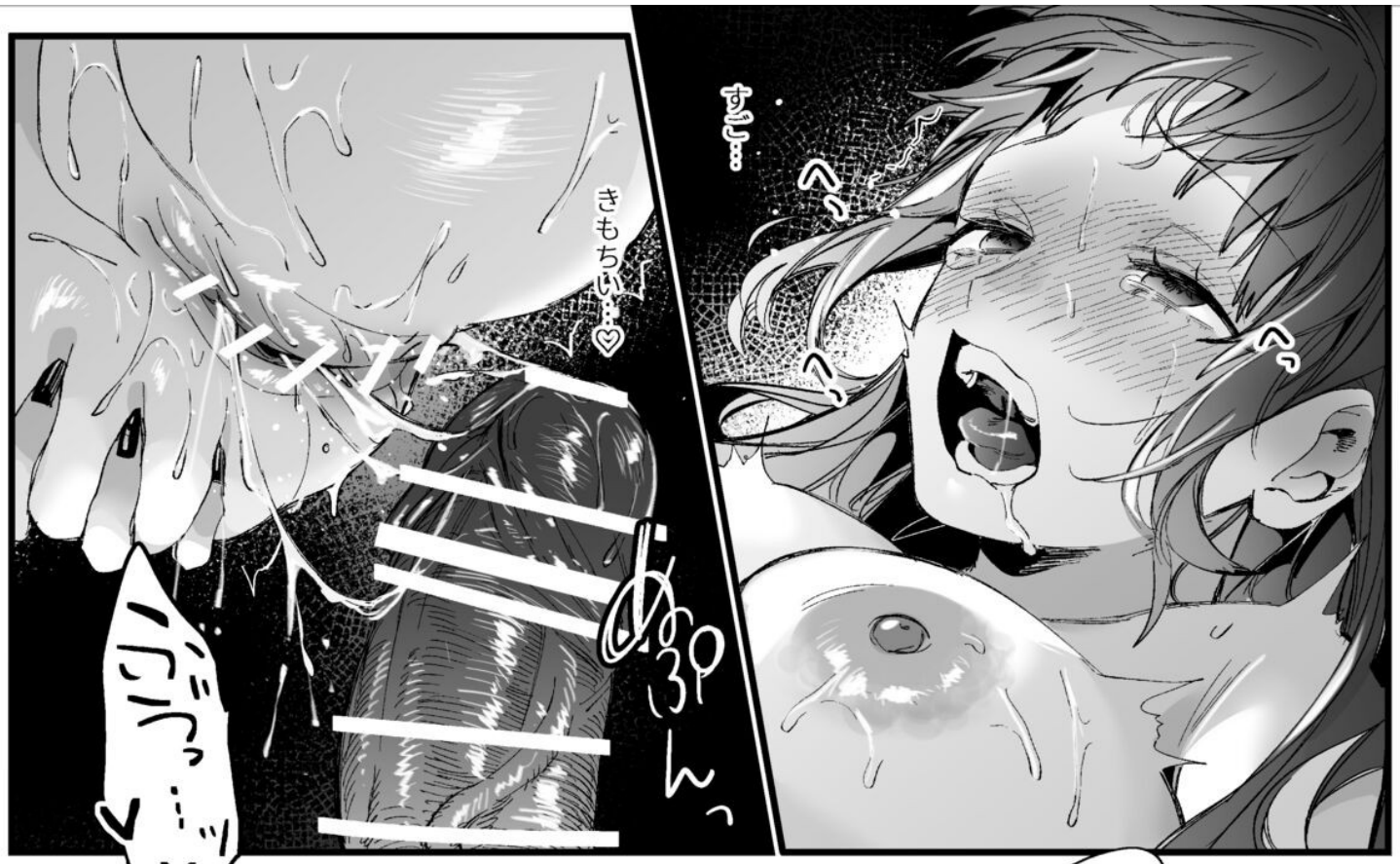
はーっ
魁……
はーっ
もっと俺の種が
欲しいって泣いてる
胎のナカが
かわいそうだもんなあ？
ひッ
八重の髪の毛
一本から
血の一滴まで
俺のモノなんだから
ちゃんと
残さず全部
喰ってやる

ほら
ここが
八重の子宮
ごりゅッ
ぴッ
ずちゅっ
ほっ
おっ♡
んおッ♡
へっ
へっ
へっ
ずんっ
ずんっ
ずんっ
ぐりぐり
ぐりぐり
腹の中を
かき回されて
そんなやらしい声
出しちゃうんだ
ぐ
ぐ
ぐ
あっ♡
あっ
ぎゅ〜♡
ぐりぐり
いっしょやだ、
あっ♡
イッ
イッ
イッ
んッ♡

ふぁぅ
今度ここだけでイけるように躾けてあげる　うれしい？
やっ〜あ…ッ
こっちでイキ地獄を味わって
でも今日は
おぉおおぉ
ぉぉぉぉ…

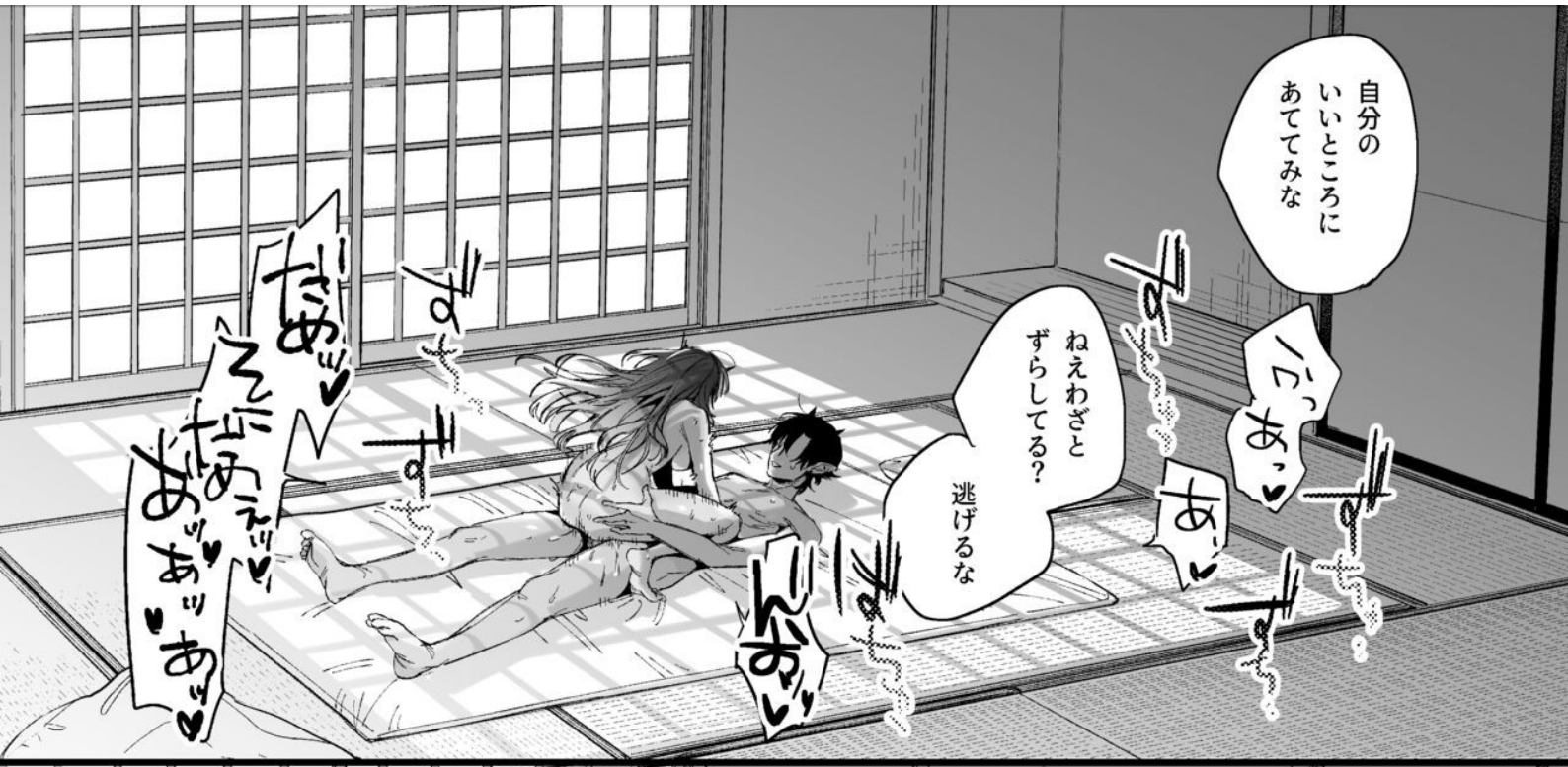
ビクッ
ビクッ
あっ
んっ
んぐっ
ぐぐっ
おっ
あっ
やじゃ
ないでしょ
もうこんな奥まで
咥え込めるんだから
おくだっ
あっ
あ
ぷしっ
お腹の奥まで
あついので
拓かれてて
へんに
なる…っ♡

イグッ
イッ…♡
あっ♡
まだ
イけるでしょ？
ほら
もう一回
ほーら♡
ひぃっ♡
ヤッ♡
ぬぽっ
ぬぽっ♡
やだっ
おっ
ガクッ
よ
ガクッ
あ…♡
魁のがナカを
突いて
イかされる度
私が作り替え
られているのが
わかる
しょ…♡
ガクッ


すご…
へっ
へっ
きもちい…♡
ハァハァ
あぁんっ
ビクビクっ…ッ

八重がぐちゃぐちゃになってるの
本当にたまらない…
はーはーっ

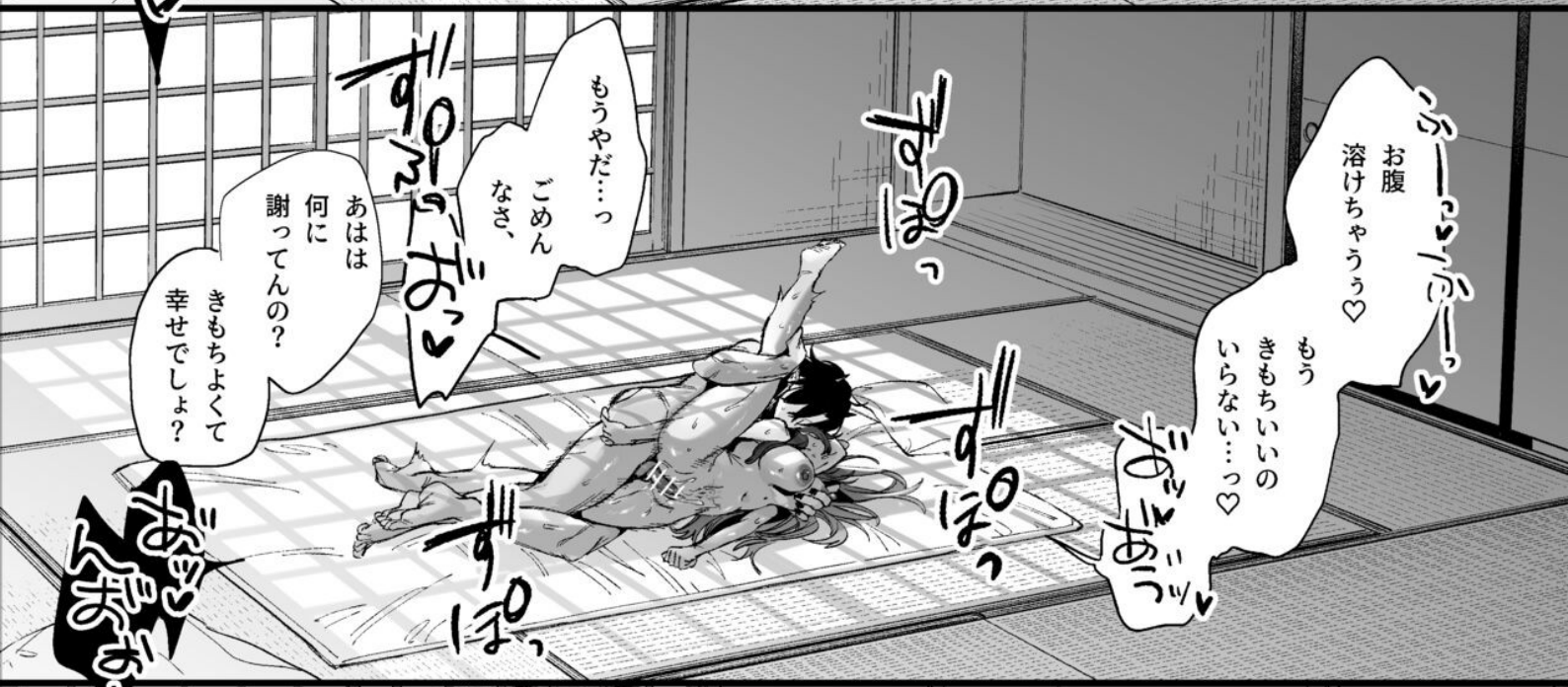
もっと見せて…♡
まるで捕食されてるみたい…

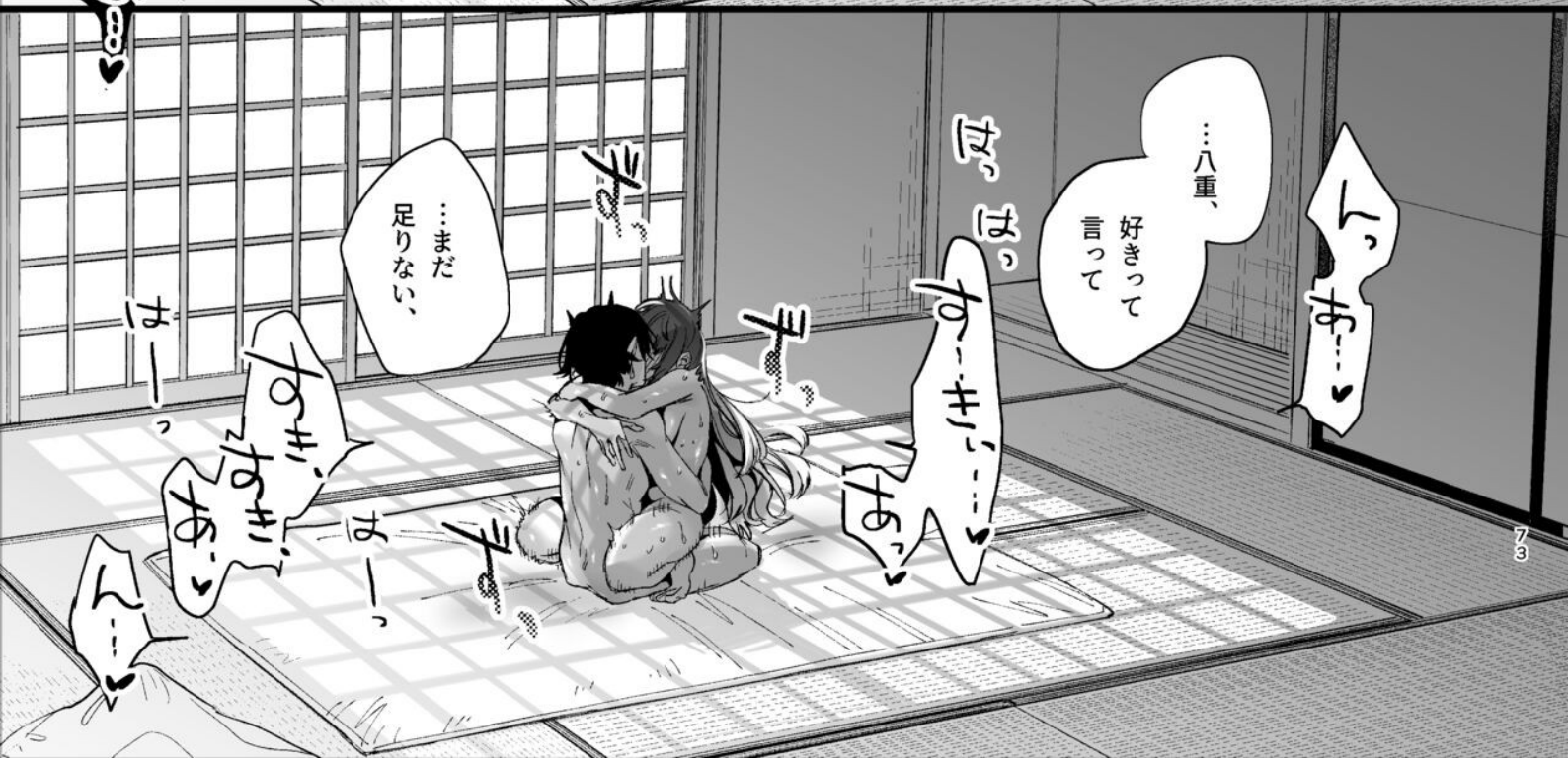

自分の
いいところに
あててみな
ねえわざと
ずらしてる？
逃げるな

うそつきっ♡
やさしくするって
いったのに…っ♡
八重が
煽ったんだろ？
お詫びに
いいトコ
突いてあげる
いやっ
まって…っ
イクイクッ
イクッ〜ッ

あー…
部屋中に
メスの匂いが
充満して
俺も
おかしく
なりそう…♡
ダメだ
おっ
おっ
おっ

ナカすっごい
ぬるぬるで
きもちい…♡
おッ♡
きもちよすぎて
死んじゃう、
しぬ…っ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
おッ♡
しぬッ♡
死なない
死なない
八重が死ぬ時は
俺と一緒だからね
しぬッ♡


ふーっ♡ふーっ♡
お腹
溶けちゃうぅ♡
もう
きもちいいの
いらない…っ♡
おッあっ♡
ずぽっ
ずぽっ
ずぽっ
もうやだ…っ
ごめん
なさ、
あはは
何に
謝ってんの？
きもちよくて
幸せでしょ？
おッ♡
おおおお♡


ん…っ♡
お…♡
…八重、
好きって
言って
はっ
はっ
すー…きぃ…♡
あっ♡
すき
すき
すき
…まだ
足りない、
はーっ
はーっ
すき、すきっ♡
あ…♡
ん…♡

あ
起きた？
パン
パン
パン
…？
ぱっ
勝手に
使わせて
もらってたから
？
？
あ？
あっ
八重が
気絶してる間も
いっぱい
出しちゃった
え、
あっ
ビクッ
ビクビクビクッ♡

わかる？八重
淫紋が濃くなっちゃってるの
お腹が…っ♡
発情してるのがまるわかりではずかしいね
あー…駄目だ…本当に喰ってしまいたい
これ、こんなちゃんおい

魁の精液がナカに入る度に
ぐずぐずに蕩けちゃって…
いっぱい出されてそんなにうれしい？
たくさんこすって欲しくてお腹がうずく…♡
あーあ淫紋交尾癖になっちゃうね？
これしゅき♡
これから八重はずっと俺の子種がないと生きてけない
ほらもっと発情して

本能で脳みそ
ぶっ飛ばして
きもちいいこと
だけ考えてよ
あー淫紋
効きすぎ
ちゃった?
ホントに
飛んじゃってる…♡
かわいい♡
堕ちろ
堕ちろ♡

おぉ…
イグッ
イグッ
ぐちゅ
ぐちゅ
あぁぁ
あぁぁ
ビュビュ
お…
お…
ビュビュ
八重の子宮
降りてきてる…
あ…
おんおんおぉ…
おぉ
んぐ…
へっへっ
ふぅ
ふぅ

そんなに
おねだり
されたら
もっと奥で
出したく
なるでしょ…っ♡
んおぉッ
ビュッ
ビューッ
どぷ
ぬぽぉ
んぁッ
ビクン
あぁ
あぃ
グリ
グリ

やっと…

この手の中に堕ちてきてくれた…

次ページから
おまけです

鬼は醜く
恐ろしく
産まれ落ちてから
死ぬまで
永遠に孤独だ

本当に
鬼？

神様みたいに
きれいだなって
思って

…なんだ
こいつは

白装束の
上からでもわかる
肉付きの悪さ

村でどういう扱いを
受けてきたのか
想像に難くない

そしてここに来た
ということは
この娘もまた贄として
捧げられたんだろう

…なのに

何故こうも
負の感情が
一切感じられない？

キュロ

キュロ

俺を産んだ土地に
住み着いた挙句

勝手に神として崇め
都合の悪い時のみ
鬼のせいだと
のたまう人間共

端から生贄に
興味など無いが…

？

このままだと
間違いなく
死ぬな

退屈しのぎには
なるかもしれん

…お前、

俺と契りを結ぶなら
生かしてやってもいい

この瞬間は
ただの
気まぐれだった

えっ
おかわり
していいの…？
暮らじてみて
わかった
…好きに
すればいい
天国…？
八重は
優しいとか
そういう話
じゃなく
自分が幸せな
未来を想像する
ことすら出来ない
こんなの
生まれて
初めて
ありがとう…
ただ己に対して
鈍いだけの
哀れな
娘だ
…俺と同じだ

…人間の子供は
甘いものを
好むんだったか…

!?

八重はよく
こんなの
初めてだと
口にするが

それは八重
だけじゃない

おいし～～！

その感情に
気付いてからは
ずっと

八重が広い
世界を知って

俺の傍から
いなくなるのが
怖かった

この山の外から
出るななんて

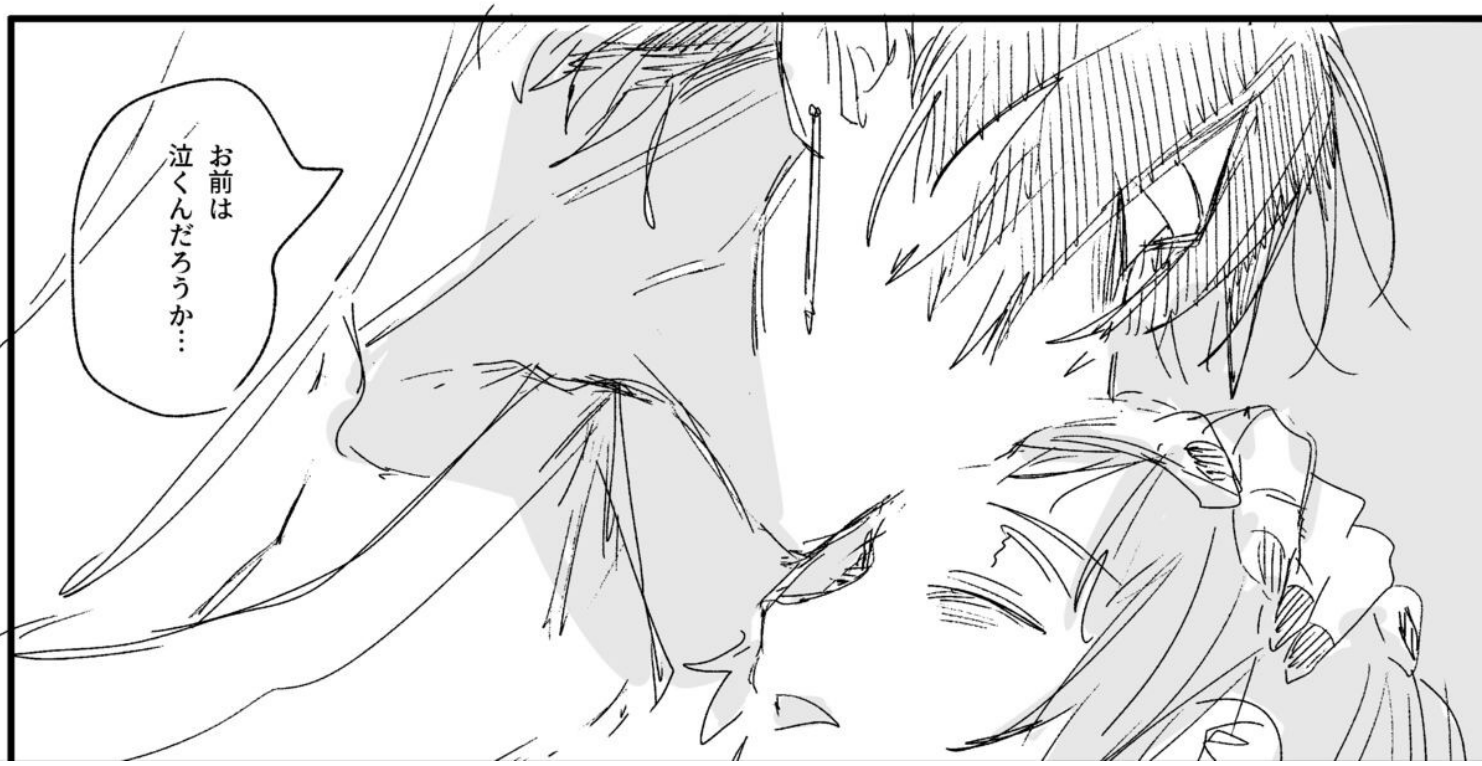
体よく八重を
閉じ込めただけだ

優しい世界に
閉じ込めて

いつか八重には
俺しかいないと
理解出来るように

捨てられるかもしれない恐怖から
俺への感情が曖昧なまま俺のものになってしまった
こんな鬼しか信用出来ないなんて
本当にかわいそうで愛おしい
あの村ともようやく断ち切れる
…なあ八重

八重が村に
戻ったあの時
お前が傷付くのを
わかった上で
見逃したと知ったら


お前は
泣くんだろうか…

魁
長い間一人で山に籠っていたら
いつの間にか人間に神と崇められていた。
今まで捧げられた人間は遠くに捨てていた。
基本的には人間嫌い。
鬼としての力がとても強く、神くらいなら余裕で殺せてしまう。
故に生まれてからずっと孤独だった。
八重と出会ってからは八重のために、が全てになる。
性格も口調も八重が好むであろうものに変えた。
本当の自分に気付かないで欲しいのに、
全部知って受け入れてほしい矛盾に10年苦しんだ。
八重が村に戻った時、村の人間が快く受け入れたら
人間の世界に戻してやろうという賭けをしていた。

八重と一緒に家事を覚えた結果、
今や出来ないことなんてない鬼界唯一の男

八重
幼い時に山に捨てられた。
時代だし仕方ないメンタルで特に腐ることなく生きてきたが、
生い立ちと環境で自分への幸せのハードルが死ぬほど低い。
（村の人から拾われ者扱いされてきたことが
本人にとって当たり前になっている）
魁と暮らすようになってからはちょっとだけ
わがままも言えるようになった（本人無自覚）
自己評価が最悪故に魁の自分への激重感情に全く気付かなかった。
その後八重の知らないところで一つの村が消え、
人間の世界との縁が切れた（物理的に）

たいていの家事は出来るようになったが、
いまだに魚を焼くのが苦手（魚がメインの時は魁が焼く）

梅ねぎ大明神
umenegiman@gmail.com

本作品は実在する人物、
団体とは一切関係ございません。
無断転載、複写、改変は禁止致します。

この漫画を当サークルに許可なくインターネット上に
アップロードはする行為は犯罪です。(著作権法23条)
10年以下の懲役もしくは1000万円以下の罰金、
またはその両方が同時に科せられます。(著作権法第119条第1項)
発見した場合は、すぐに法的措置をとります。

All rights reserved. Unauthorized duplication
is violation of applicable laws.
禁止私自轉載、加工

表紙ロゴ
UCHUgDesign / 日野かじお様